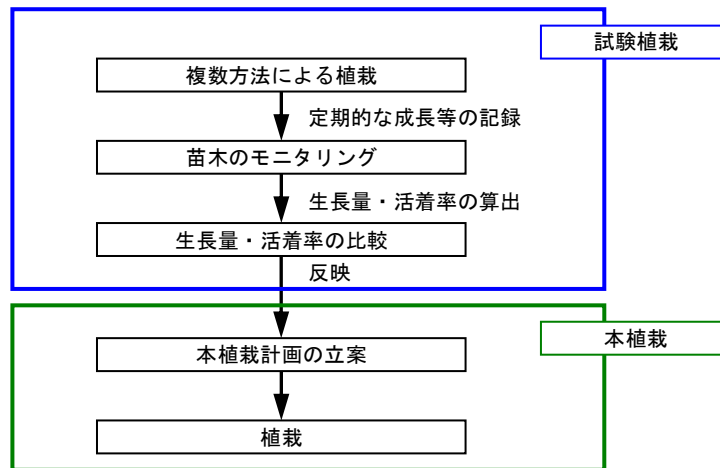


試験植樹の実施について

1 試験植樹の概要

試験植樹は、土質の違い、施肥の有無による複数の植栽方法により平成22年10月に実施する。植栽後には、苗木の生長を継続的にモニタリングし、生長量、活着率を比較することで、対象地にふさわしい植栽方法を選定し、本植栽計画に反映させる。



2 試験植樹の方法

(1) 植栽地の設定

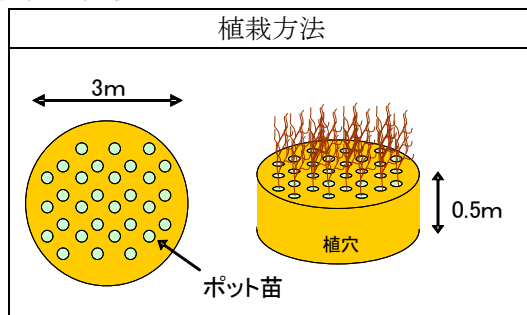
試験地	土質	施肥
試験地 1	ローム層と軽石層	使用する
試験地 2	ローム層と軽石層	使用しない
試験地 3	ローム層単独	使用する
試験地 4	ローム層単独	使用しない

(2) 樹種と植栽密度

植栽地全体をあらかじめ約 50 cmの深さまで耕耘しておき、高木類と低木類を組み合わせたうえで密植する。

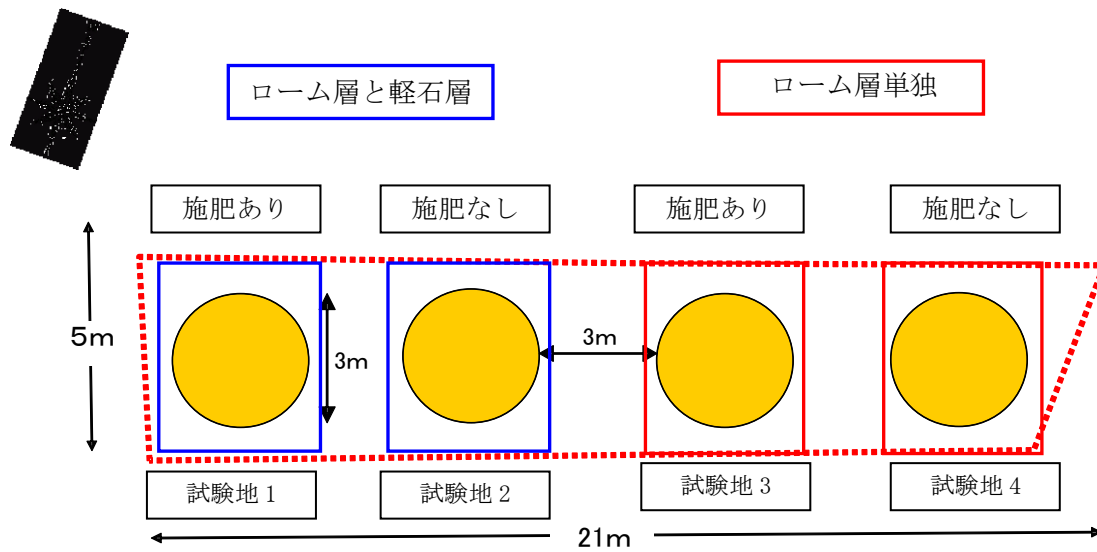
直径 3m の円の中にポット苗木を 22 本植栽することとし、次の 11 種類の樹種をそれぞれ 2 本ずつ使用する。

- 高木類 ミズナラ、ブナ、イタヤカエデ、ハウチワカエデ、ヤマザクラ、シラカンバ
- 低木類 オオバクロモジ、ヤマツツジ、ノリウツギ、タニウツギ、ヒメヤシャブシ
- 密植の植栽方法



(3) 植栽地の配置

試験植樹場所は 5m×21m の長方形であるため、試験地を 3m の間隔で配置する。



3 モニタリング調査

試験植樹では、ポット苗の活着や枯死が考えられるほか、周辺からの樹木や草本類の自然侵入等、様々な消長が想定される。またポット苗には、植栽方法や立地の違いに応じた生長の違いが想定されることから、下表に示す項目を3年以上記録する。

○モニタリング調査項目

項目	調査内容
個体数	個体数を記録し、活着率を算出する。
活力度	樹木活力度を参考に、地上部の葉の繁り等を評価する。
サイズ	樹高、樹冠幅、胸高直径を記録し、材積を算出することで生長量を算出する。
根茎	土中の根茎の根量、深さを確認し、施肥のほか、土壌硬度による影響を把握する。
周辺植生	ポット苗以外の侵入状況を記録し、除草の必要性や樹木の自然侵入の可能性を検討する。